

公共事業の評価について
(意見具申)

令和元年 1 2 月

堺市公共事業評価監視委員会

1. はじめに

本委員会の目的は、堺市が実施する国庫補助事業及び交付金事業の再評価、再々評価及び事後評価の対応方針（原案）に関して審議を行うことにより、公共事業の効率性及びその実施過程において透明性の一層の向上を図ることである。これらの目的に資するため、評価基準には「国土交通省の実施要領」に『堺市独自の視点』を加えている。審議は市当局からの事業内容や事業の効果に関する説明をもとに、各委員の専門的立場を踏まえて審議し、委員会の意見を総合的見地から取りまとめるという方法で行った。また審議内容については、意見具申と同時にその議事要旨と審議資料を公表し、本委員会として何を議論したのかを市民へ公開するように努めるものとした。

市においては、本委員会の意見を踏まえ、総合的な判断を行い対応方針が決定されるとともに、評価システムの充実に向けてさらに積極的な取組みを進められるよう望むものである。

2. 審議の対象とした事業の範囲と評価の基準

今回、審議の対象となったのは、再評価後 5 年が経過した時点で継続中の「大和川圏域総合流域防災事業（狭間川）」、および事業着手後 5 年が経過した時点で継続中の「都市計画道路 南花田鳳西町線（金岡・白鷺地区）」の 2 件であった。

再々評価、再評価にあたっては、次の視点から事業の必要性等を精査した。

- ・「事業の進捗状況」
- ・「事業長期化の要因」
- ・「事業完了の見込み」
- ・「事業効果の確認」
- ・「費用対効果分析結果について」

3. 審議結果

(1) 再々評価対象事業

【大和川圏域総合流域防災事業（狭間川）】（別表1参照[P.4]）

本事業については、以下の審議の結果、事業継続の必要性が認められるため、「事業継続は妥当」と判断する。

本事業は、河道改修を行うことで、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水を安全に流下させるとともに、時間雨量80ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐなどの効果が見込めることを確認した。

また、本事業における費用便益分析の結果B/Cは22.0であり、事業を継続することによる事業効果が期待できることを確認した。

なお、事業の審議を通じて、次の意見が出された。

- ・『「再々評価個票」や「再々評価審議対象一覧表」に記載されている自然環境等への影響と対策について、現状ある影響に対する具体的な対策を明記し、遊歩道の整備については、別事業で行う旨を明記していただきたい。』
- ・『「再々評価個票」に記載されている再評価時点と現時点におけるB（総費用）やC（総便益）について、評価基準年度が異なることによって計算結果が異なることがわかるように明記していただきたい。』
- ・『防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策によって事業の前倒しを行ったことを「再々評価個票」に明記していただきたい。』

(2) 再評価対象事業

【都市計画道路 南花田鳳西町線（金岡・白鷺地区）】（別表2参照[P.5]）

本事業については、以下の審議の結果、事業継続の必要性が認められるため、「事業継続は妥当」と判断する。

本事業は、本市の道路ネットワークにおける環状軸を形成する重要な幹線道路の一つであり、周辺道路の交通混雑の緩和、災害時の広域避難施設への避難路の形成及び火災発生時の延焼遮断効果等の防災性が向上することが確認された。

なお、事業の審議を通じて、次の意見が出された。

- ・『委員会の資料については、個票の費用便益分析に評価基準年を追加していただきたい。』

4 結び

公共事業の評価にあたっては、事業の必要性や重要性などを具体的でわかりやすく表現し、市民に対して事業説明を行っていくことを期待して意見具申の結びにかえる。

(添付資料)

- 第5回堺市公共事業評価監視委員会議事要旨
- 審議対象事業説明資料
- 堺市公共事業評価監視委員会規則
- 堺市公共事業評価監視委員会 出席者名簿

再々評価審議対象事業一覧表（1事業）

（別表1）

事業種別	事業名	事業内容及び事業コスト	市民のニーズ	採択年度	事業が長期間要している理由	事業効果の発現状況		自然環境等への影響と対策	途中段階の整備効果発現状況	市の評価	評価
				進捗率 (H31.3)		定量的評価	定性的評価		事業の置かれている状況 (現状での課題)	完成目標年度	
河川事業	大和川圏域総合流域防災事業 (狭間川)	河道改修 L=1.15 km (鋼矢板圧入 L=2.30 km、河床掘削 V=3,220 m ³ 、護岸被覆 A=3,060 m ²) 全体事業費 1,230百万円	近年、全国各地で豪雨災害が頻発しており、治水安全度の向上が求められている。	平成19年度	当該河川においては、橋梁や鉄塔などの河川占用物が多く、工事実施にあたっては、施設管理者との近接施工協議が必要なため。	治水安全度の向上により、流域における浸水被害の軽減	○計画時の想定 B/C=7.3 総便益 B=約174.8億円 総費用 C=約23.9億円 ○再評価時点 B/C=22.2 総便益 B=約161.4億円 総費用 C=約7.2億円 ○現時点での状況 B/C=22.0 総便益 B=約205.6億円 総費用 C=約9.4億円	○影響 河川敷内にキョウチクトウが繁茂し、見通しが悪く、景観上好ましくない状況にあった。 ○対策 繁茂したキョウチクトウを撤去し、見通しのよい空間を形成。キョウチクトウの撤去後、隣接する公園の利用者が河川と公園の景観を楽しむことのできる空間の形成として、遊歩道整備を別事業によって行う方向で検討中である。	当該河川の改修済区間において、護岸を溢水する浸水被害は発生していない。	事業継続	継続
				49% (河川全体:75%)						令和5年度	中止

再評価審議対象事業一覧表（1事業）

（別表2）

事業種別	事業名	事業内容及び 事業コスト	市民のニーズ	採択年度	事業が長期間 要している理由	事業効果の発現状況		自然環境等への 影響と対策	途中段階の整備効果 発現状況	市の評価	評価
				進捗率 (H31.3)		定量的評価	定性的評価		事業の置かれている状況 (現状での課題)	完成目標年度	
街路事業	都市計画道路 南花田鳳西町線 (金岡・白鷺 地区)	延長：1.85km 道路幅員：第4種第1級 道路幅員：22～45m 全体事業費：約174億円 (内訳) 用地補償費 約70億円 工事費 約104億円	○災害時における指定避難 所等への避難路形成によ る防災性の向上	平成26年度	-	○費用便益比 B/C=3.3 (事業全体) 総便益 B=469億円 総費用 C=140億円 B/C=4.0 (残事業) 総便益 B=469億円 総費用 C=119億円 ※評価時点 R1年度 ※費用便益算定の根拠 「費用便益分析マニ ュアル (H30.2)」 国土交通省 道路局 都市・地域整備局 ○渋滞損失時間 101.3万人・時/年	○交通の円滑化 ・平行する幹線道路に集中した交通を分 散させることにより円滑な交通を確保 ○安全性の確保 ・生活道路への通過交通抑制による 周辺通学路等の安全性向上 ○防災性の向上 ・避難路としての機能を有し、災害時の 迅速な避難を支援 ・救援物資集積場所と広域避難地間を 結ぶ代替路を形成 ・緊急交通路としての役割 ・延焼遮断効果として火災延焼を防ぎ、 被害を軽減	CO2排出削減量：4,000t/年	用地取得・建築物の撤去が 完了した箇所において、延 焼遮断効果が発揮されてい る。	継続	継続
				・用地：21% (面積ベース) ・全体事業費：1% (執行額ベース)					特に無し	令和8年度	見直し 中止